

ロボット革命・産業 IoT 国際シンポジウム 2022
～ 全ての産業の基盤としての製造業 ～

実施報告書

2022 年 11 月 14 日
ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会

目次

1	はじめに	3
1.1.	経緯と内容	3
1.2.	国際シンポジウムの目指すこと	3
1.3.	主催、共催、協賛、後援	3
1.4.	開催形式	4
2	対象	4
3	プログラム	4
3.1	Day1 10月11日（火）14:30-16:30 オンライン.....	4
3.2	Day2 10月12日（水）19:00-21:00 オンライン.....	5
3.3	Day3 10月13日（木）17:30-19:30 オンライン.....	5
3.4	本会議 10月27日（木）14:00-16:05 対面およびオンライン.....	6
4	スポンサー表記	7
5	聴講者トレンド	8
5.1	聴講登録者数とアクセス数	8
5.2	聴講者プロフィール.....	8
5.3	聴講者フィードバック	9
6	会計報告.....	11
7	おわりに	12

1 はじめに

RRI では毎年秋に国際シンポジウムを開催し、国内外のリーダーと共に ものづくりの将来像、課題、アクションの議論を行ってきました。本年は 8 年目を迎え、更に国際とのパイプの強化、海外への情報発信と共に、国内ものづくり産業の変革、ひいては日本の競争力向上を支えるべく、皆様のご協力を得て国際シンポジウムを開催しました。

1.1. 経緯と内容

国際シンポジウムは 2015 年度に第一回を開催し、その後、年 1 回のペースで以下の視点で開催し、産業界から多くの方々に参加いただきました。その後 2016 年に交わした独 Platform4.0 との連携協力の進捗確認の場として、春のハノーバーメッセ（ドイツ）、秋の国際シンポジウム（日本）を位置づけるとともに、他国のリーダーも交えて議論を深めていく形をとってきました。2020 年から、シンポジウムの模様を海外にもリアルタイム配信し、海外のステークホルダーへもメッセージ の発信を開始しています。

- 政府提唱の Connected Industries の Robotics, 産業 IoT 分野での推進
- 政府の日独連携協力の実行部隊としての独 Plattform Industrie 4.0 との連携協力の成果発表の場
- 国内外のリーダーとの対話の場

1.2. 国際シンポジウムの目指すこと

国際シンポジウムでは第 4 次産業革命の真の意味、将来像、協調領域活動の推進などを、その時代のキーワードと共に議論し、日本および世界の産業が取り組むべき課題議論をテーマとしています。また、海外の事例紹介など日本企業にとってのベンチマーク材料も提供してきました。これらを通じ、産業界がグローバル標準の取り込みを推進するとともに、「どこで戦うのか」強みを考える機会を提供していきたいと考え、プログラムを策定しました。

1.3. 主催、共催、協賛、後援

主催：ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会

共催：経済産業省、ドイツ 経済・気候保護省（Day3 のみ）

協賛（50 音順） 以下の皆様にスポンサーとして、ご支援をいただきました。

プラチナスポンサー	株式会社日立製作所
	株式会社安川電機
シルバースポンサー	株式会社小松製作所
	ファナック株式会社
	富士通株式会社
	株式会社野村総合研究所
	三菱電機株式会社

後援（50 音順）：一般社団法人 インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ

在日ドイツ商工会議所

一般社団法人 システムイノベーションセンター

独立行政法人 情報処理推進機構

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会

一般財団法人 製造科学技術センター

全国農業協同組合連合会

一般社団法人 データ社会推進協議会

公益財団法人 テクノイド協会

一般社団法人 電子情報技術産業協会

日本 OPC 協議会

一般社団法人 日本機械工業連合会

一般社団法人 日本建設業連合会

一般社団法人 日本工作機械工業会

一般社団法人 日本産業機械工業会

一般社団法人 日本電気計測器工業会

一般社団法人 日本電機工業会

一般社団法人 日本ロボット工業会

1.4. 開催形式

コロナ感染症対策のため、国際シンポジウム Day1～Day3 は無料のオンライン開催としました。

本会議は機械振興会館での対面方式とオンラインのハイブリッド開催としました。

2 対象

以下を聴衆として想定し、プログラム企画を行いました。

- 製造業に携わる経営層
- エンジニアリングに関わる研究者・実践者
- スマートマニファクチャリング標準化の関係者
- ビジネスモデル変革に興味のある人材
- オンラインでは、国際社会からの参加、国内では若い層の参加者獲得に挑戦。

3 プログラム

3.1 Day1 10月11日（火）14:30-16:30 オンライン

- Catena-X のボードメンバである Volkswagen の Frank Goeller 氏、SAP の Hagen Heubach 氏、慶應大学 大学院の白坂先生に参加いただいた。
- Frank Goeller 氏 (Volkswagen AG, Head of Digital Production)

- : Digital.Transformation@Volkswagen
- Hagen Heubach 氏 (SAP SE, Head of Industry Business Unit Automotive, Global Vice President)
 - : Catena-X: On the way to the first truly open and collaborative data ecosystem
- 白坂先生 (慶應義塾大学 大学院 教授) : デジタル時代のものづくりアプローチ
- パネルディスカッション : モデレータ 杉江様 (フューチャー株式会社)
 - デジタル時代のものづくり・エンジニアリングの理解
 - デジタルエコシステムについて
 - 社会インフラとしての PSS 連携システムについて

3.2 Day2 10月12日(水) 19:00-21:00 オンライン

- 独 カガーマン博士、米 John Dyck 氏 (CESMII CEO) 、日 水上氏 (RRI) に参加いただいた。
- カガーマン博士 (独 acatech 理事会議長) : Sustainable and resilient digital ecosystems
- John Dyck 氏 (CESMII CEO) : Partnering to Drive Interoperability and Harmonization
- 水上 潔 氏 (RRI WG1 産業 IoT アドバイザ) : 国内動向と次代産業構造におけるものづくり技術 (Manufacturing) の意義 (RRI の活動から)
- パネルディスカッション : モデレータ 入江様 (日立)
 - デジタル時代のものづくり・エンジニアリングの理解
 - デジタルエコシステムについて
 - 社会インフラとしての PSS 連携システムについて
 - 日本/RRI への期待

3.3 Day3 10月13日(木) 17:30-19:30 オンライン

- 伊奈 友子 氏 (経済産業省 製造産業局 ものづくり政策審議室長)
- Markus Heß 氏 (独 経済・気候保護省 次長)
- 製造の将来に向けて - 日独標準化連携
 - 木村 文彦 氏 (RRI 国際標準化支援アクショングループ 主査 / 東京大学 名誉教授)
 - Mr. Jens Gayko 氏 (Standardization Council Industrie 4.0, Managing Director)
- サプライチェーンにおける組織とモノのトラストのあり方について
 - 古川 文路 氏 (RRI 産業セキュリティ アクショングループ / 株式会社 東芝)

- Aliza Maftun 氏 (Plattform Industrie 4.0 AG3 / Siemens AG)
- Business Ecosystem in Industries
 - 杉江 周平 氏 (フューチャー株式会社 Strategy Innovation Group 物流・製造ディビジョンリーダー)
 - Ulrich Löwen 氏 (Plattform Industrie 4.0 AG6 / Siemens AG)

3.4 本会議 10月27日(木) 14:00-16:05 対面およびオンライン

- 製造ビジネス変革 日本の道
- 藤本様 (経済産業省 大臣官房審議官 (製造産業局担当))
- 国際シンポジウム 国際との対話から
 - 楠 和浩 氏 (WG1 共同主査 / 三菱電機)
- パネルディスカッション
 - 阿部 剛士 氏 (横河電機 常務執行役員 マーケティング本部本部長 CMO 博士(技術経営))
 - 池山 正隆 氏 (IHI 代表取締役 副社長執行役員)
 - 吉見 隆洋 氏 (DXC テクノロジー・ジャパン CTO for Japan 博士(工学))
 - モデレータ：
 - ◇ 藤野 直明 氏 (RRI 製造 IoT 情報マーケティング / 野村総合研究所 産業 IT イノベーション事業本部 主席研究員)
 - ◇ 水上 潔 氏 (RRI WG1 産業 IoT アドバイザ)

各講演の模様（ビデオ）および講演資料については以下を参照ください。

Day1-Day3

<https://www.jmfrri.gr.jp/event/seminar/3385.html>

本会議

<https://www.jmfrri.gr.jp/event/seminar/3647.html>

4 スポンサー表記

スポンサーロゴを以下の場所に表記しました。また、本会議の中でもスポンサーのロゴを表示し、支援いただいている企業ロゴを紹介いたしました。

申し込みサイト https://www.jmfrri.gr.jp/event_seminar/3344.html

プラチナスポンサー

HITACHI
Inspire the Next

YASKAWA

シルバースポンサー

KOMATSU

FANUC

FUJITSU

NRI
Nomura Research Institute

**MITSUBISHI
ELECTRIC**
Changes for the Better



本会議におけるスポンサー紹介の様様

5 聴講者トレンド

5.1 聴講登録者数とアクセス数

	目標（人）	実績（人）	昨年実績（人）
聴講登録者 （いずれかの日程に申込んだ人数）	1,000	552	782

後援団体を通じ、積極的な情宣を行いました。が、昨年比 30%減の申し込みとなりました。更なるチャネル開拓が必要です。

日程	11/11 時点での YouTube 上での視聴回数
Day1 10/11	1,336 回（約 1 か月後のアクセス数）
Day2 10/12	595 回
Day3 10/13	507 回
本会議 10/27	403 回
計	2,305 回

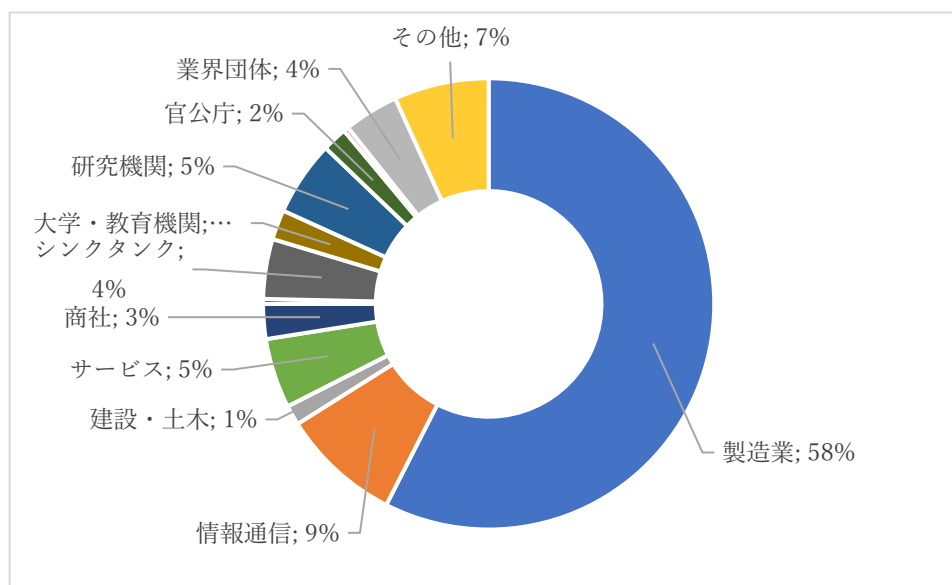
参考：昨年 Day1 1 年後の累積アクセス回数：1,509 回

全日程を通じ、昨年に比べ講演当日のアクセス数はそれほど高くありませんでした。ただし、後日の視聴数は伸びており、今後も継続的にアーカイブのプロモーションを行っていきます。

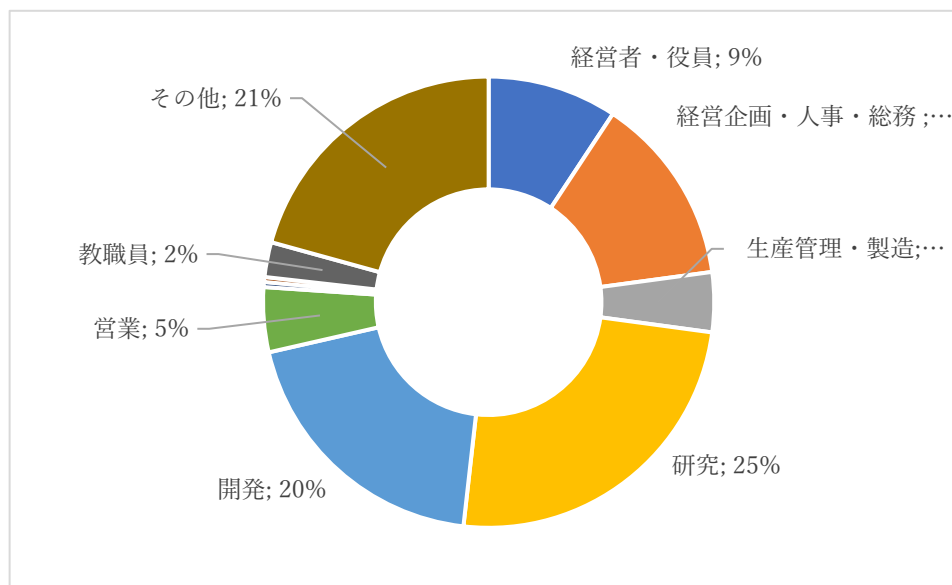
Day1 講演当日のアクセス数は昨年に比べ伸びています。VW、Catena-X の講演があり、自動車関連者のアクセスが考えられます（Day1 昨年 208 アクセスに対し、今年 235 アクセス）。

5.2 聴講者プロフィール

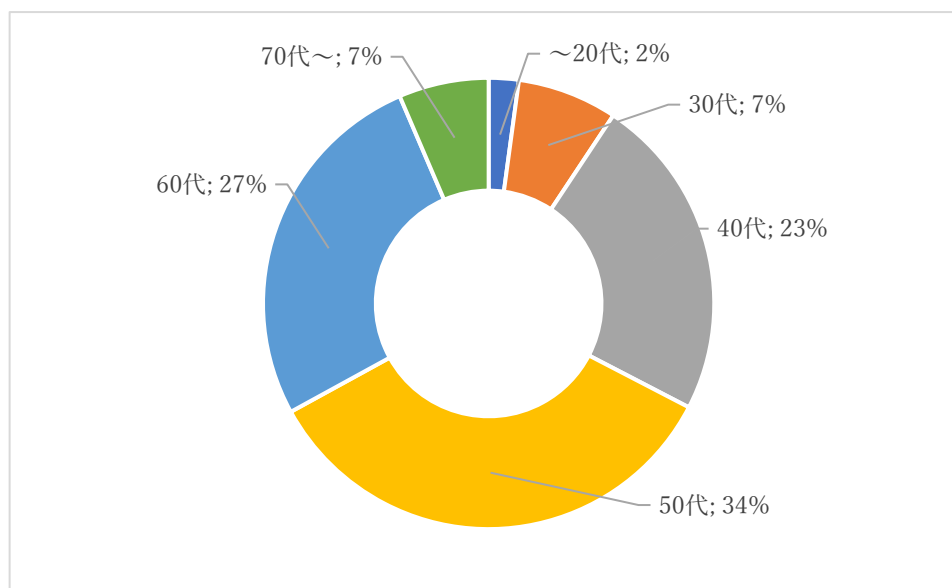
業種



職種



年齢



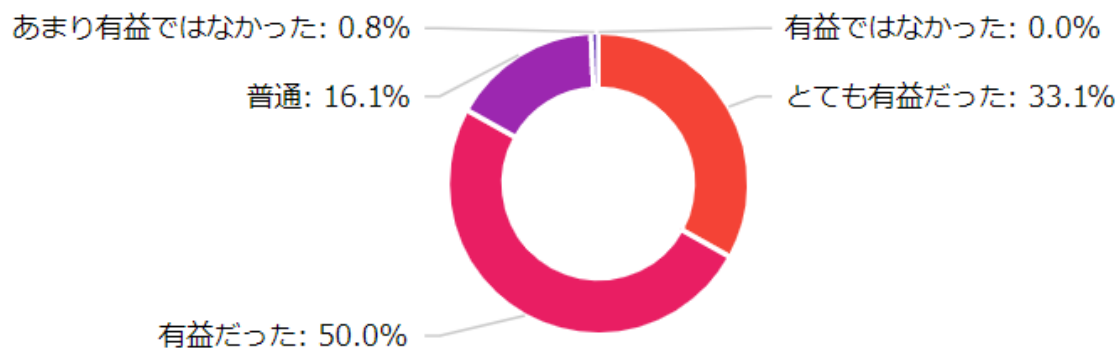
全体に 40-60 代の年齢層が多く、次世代の製造ビジネスを議論する場としては 30 代など中堅層の参加拡大が今後の課題と考えます。

5.3 聴講者フィードバック

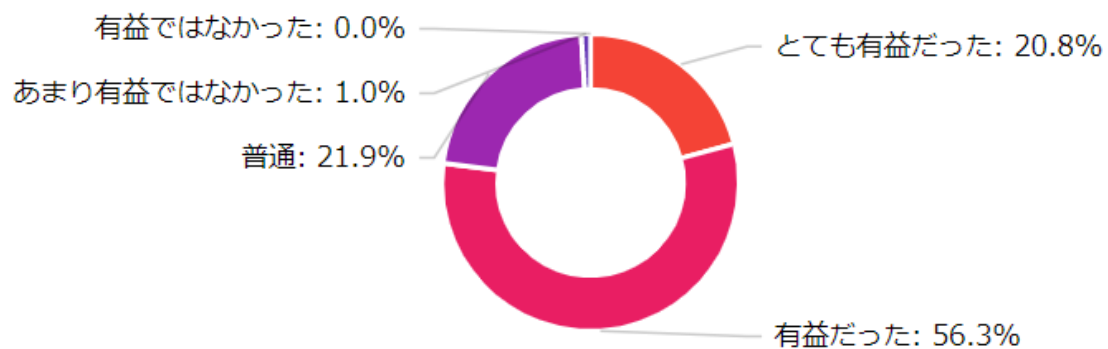
聴講者アンケートを行い、フィードバックを得ました。

有益度

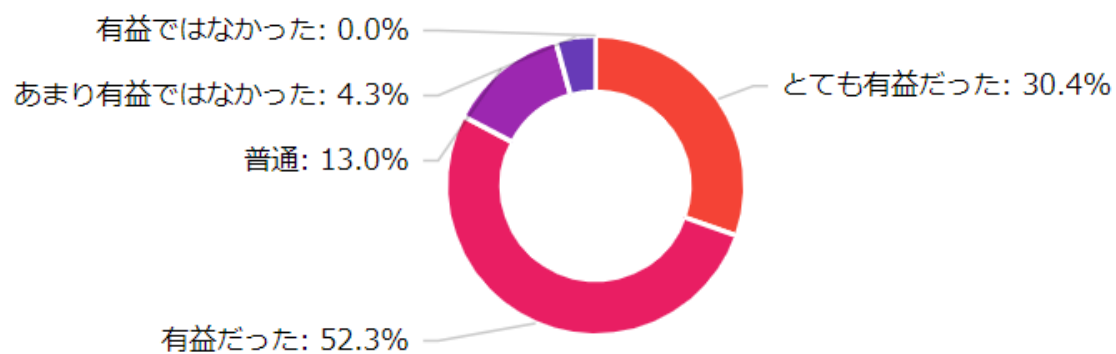
➤ Day1（アンケート回答者数：162 人）



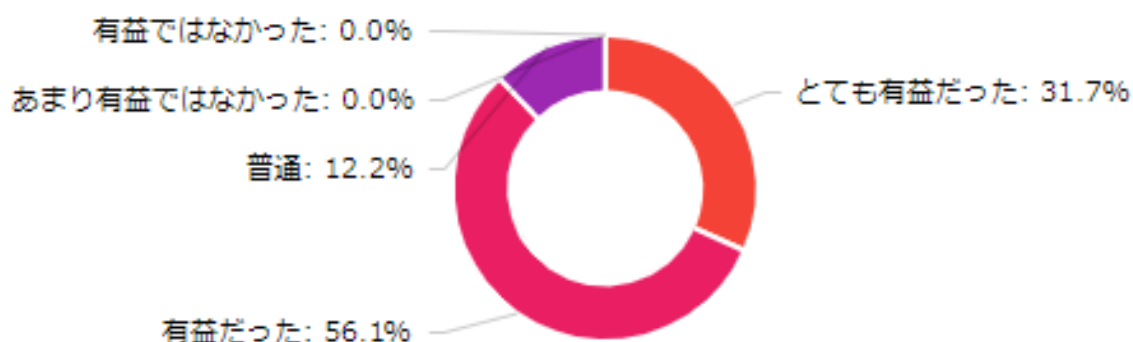
➤ Day2（アンケート回答者数：162 人）



➤ Day3（アンケート回答者数：162 人）



➤ 本会議（アンケート回答者数：118 人）



各講演ともおおむね良好な評価をいただいています。

その他、コメント抜粋

- ドイツは10年後や30年後を見据えた活動が来ている点
- 日本は規格作りに弱いという点
- 企業の枠を越えたデータ連携の必要性
- 危機意識が共有される良い機会になったと思う。
- 過去の発表内容とその成果・反省点などを加えてほしい。
- 製造業の大多数を占める中小企業のとるべき道、具体的な施策を取り上げていただきたい。
- 「日本の道」というテーマをもっといろいろな方々に語っていただくことを期待している。

6 会計報告

	内訳	予算額（円） ①	決算額（円） ②	差異 ② - ①
収入	スポンサー収入	800,000	1,100,000	300,000
	RRI 支援	2,200,000	2,002,154	△197,846
	収入計	3,000,000	3,102,154	102,154
支出	運営委託料*1	2,650,000	2,760,560	110,560
	会議室代	200,000	181,280	△18,720
	その他	150,000	160,314 *2	10,314
	支出計	3,000,000	3,102,154	102,154
収支差額		0	0	0

*1 映像制作費、通訳費、通訳業務費、機材費他

*2 アンケートシステム利用料 11/11 時点の数値。アンケートは 11 月末まで継続するため費用は若干増分が見込まれる。

コロナ対応として、今年の本会議は、人数を制限した対面とオンラインのハイブリッド形式としました。今後のコロナ収束状況により、開催方式を検討していきます。

7 おわりに

今年は昨年から1日、日程を減らし、計4日間の開催としました。

Day1では、実践例として、Volkswagenの取り組みやCatena-Xの進捗などを通じ、デジタル時代のものづくりや製造におけるサービス化について考えました。Day2では、社会インフラとしてのデジタル時代の製造業の原則を見出しました。Day3は、2016年より始まった独 Platform Industrie 4.0とRRIの連携協力の進捗報告を行いました。

本会議で、グローバルにおけるデジタル時代のものづくりの変化を認識した上で、次代産業構造におけるものづくり技術の意義について考えました。

この国際シンポジウムを支えていただいたスポンサーの皆様には心からお礼を申し上げます。

RRIとしては、アンケートなどで課題として指摘のあった点を取り入れつつ、将来的にはスマートマニュファクチャリングを議論・実践する世界ブランドのイベントの場として育てていきたいと考えています。

引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

以上